



EGOTAN通信

—江古田小学校 研究だより—

平成30年2月1日
中野区立江古田小学校
研究推進委員会
第6号



研究主題 自分の考えをもち 学び合う 算数学習 —集団検討の場を通して—



第6回研究授業報告～1月17日（水）～

第1学年 単元名「ずをつかってかんがえよう」

授業者：稲葉 千尋先生

講師：元東京都小学校算数教育研究会会長 元港区立赤羽小学校長

聖徳大学院名誉教授 松山 武士先生

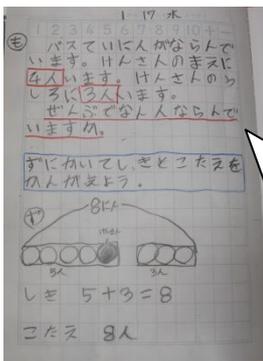
【本時のねらい】

場面を図に表して問題の構造をとらえ、問題解決の能力を高める。

【授業のポイント】

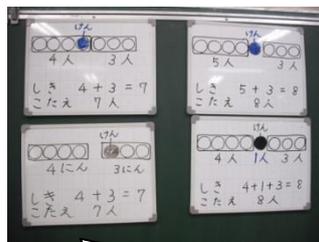
本単元では、図に表すことよさに気づき、図を用いて場面を表すことがポイントです。本時でも、問題文だけではイメージするのが難しいため、図に表して整理していくことが大切です。問題場面を正しく理解させるために、立式や図を用いる際に必要な言葉や数字に印をつけ、全員で確認してから取り組ませました。また、ペア学習で自分の考えをうまく伝えられるように話型を提示したり、図の書き方を始めノート指導を重点的に行ったりしました。

【児童のノート】



問題場面を正しく理解するために、図を用いたり、大事なところに線を引いたりしました。

図に表すことで、問題場面を正しく理解することができます。



ペア学習では、話型を使って自分の考えをノートを使いながら伝えました。



【話型】

- ①これから ぼく、わたしのかんがえを せつめいします。
- ②ノートを見せて、ゆびでさしながら せつめいをする。
- ③ききたい ことは ありますか。
- ④これで ぼく、わたしの せつめいを おわります。

【講師の松山先生より】

ノート作りが上手にできていた。教師がICT機器を使い、児童と同じノートで書いていたことがよかった。児童は、画面に映し出されたノートに書かれたことを丁寧に書き写していた。

ペア学習を取り入れていたが、話型を示しているのがよかった。どの児童も話型があるおかげで、安心して発表することができていた。話型を提示することは、発表の仕方の入門指導としてはとても大事なことである。

集団検討の際も、児童は前に出て自分の意見をしっかりと発表することができていた。話もよくきいていて学び合いの場面もよかった。

様々なご指導をいただきました。今回の研究授業を通して、より一層、授業力向上に努めていきます。